

「研究とは何だ！

- 新大の知性と地性 - 」



人文学部

古厩 忠夫 教授

(専門分野：東洋史、環日本海地域史)

古厩忠夫プロフィール

古厩 忠夫
Tadao FURUMAYA

新潟大学人文学部教授
新潟大学環日本海研究会会長

1941年長野県生まれ。

東京大学文学部東洋史学科卒業。

専攻 中国近現代史。

著書：『新潟県の百年』（共著、山川出版社）

『東北アジア史の再発見（環日本海叢書3）』（編、有信堂）

「裏日本」という言葉は 20世紀を象徴する言葉であり、 日本の近代化の 問題性を衝く存在である。

できることを一つずつやっておこうと考えて、新潟在住二十五年の総括を試してみようと思ひ、完成させたのが「裏日本」です。

5年後生存率4割と宣告

1994年「裏日本」の執筆依頼直後、胃癌が見つかりました。早期癌のつもりだったのですが、ステージⅢまで進んでいることが分かって、全摘手術を受けることになりました。主治医から、「5人のうち2人は5年後にも生きていられるとみています。」と言われました。つまり、5年後の生存率が4割ということです。驚きましたが、この年はプロ野球のイチローが4割に挑戦して届かなかった年で、私は4割と言うのは高い確率なんだと自分に言い聞かせました。そして5ヶ年計画を立て、やり残したことを一つずつやっておこうと考えました。その一つとして、新潟在住の年の総括を試してみようと思ひ、完成させたのが「裏日本」です。

田中角栄をめぐる新潟と東京の温度差

田中首相が誕生した1972年に新潟大学に赴任しました。新潟県初の総理大臣の誕生ということで地元は沸きました。その後ロッキード事件により退陣、そして逮捕。その年に行われた総選挙で、自民党は大敗しましたが、獄中の田中だけは断トツのトップで当選しました。新潟の選挙民に対する批判は厳しく、上京するたびに、「選挙民の意識の低さ」「目先の利益に走る民度

の低さ」などの批判を聞かされました。これに対して「新潟日報」は反論の社説を出しました。「三区有権者は、新潟県が歴史的にみて決して日の当る政治や行政的分配を受けておらなかったため、その遅れを取り戻す必要があると直感している。つまり、いわゆる地域エゴを發揮して地元利益を求めているのではなく、太平洋沿岸地方や大都市に比べてなおも過小すぎた国家投資の是正を求めているにすぎない」と。田中角栄をめぐる新潟と東京の温度差、正反対のまなざしに衝撃を受けました。

「裏日本」とは自然地理的概念ではなく、 社会文化的概念

「裏日本」とは、本州の日本海に臨む一帯で、主として北陸・山陰をいいます。これは、単に自然地理的概念ではなく、日本の近代化のなかで「表日本」に対するヒト・モノ・カネの供給地とされていくなかで形成された政治的産物で、社会的経済的概念なのです。

表日本の高度成長は、裏日本をはじめとする地域の労働力や資源・市場を前提として、はじめて可能になったものでした。日本列島の「総表日本化」=「裏日本なき表日本化」はあり得ません。田中角栄の日本列島改造論はそれを無視したものでした。

